

2023年4月1日～2024年3月31日の間に 回復期リハビリテーション病棟にご入院された方及びご家族の方へ

「当院の回復期リハビリテーション病棟における服薬数減量の実態」へのご協力をお願い

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

研究責任者 川崎医科大学総合医療センター 8階東病棟 山崎 麻由
研究分担者 川崎医科大学総合医療センター 8階東病棟 窪田 えみ
川崎医科大学総合医療センター 8階東病棟 松原 麻悠子

1. 研究の概要

入院患者さんの多くは高齢者であり、基礎疾患を有している場合が多いため、服薬数も増加する傾向があり、ポリファーマシーの状態に陥りやすいです。(ポリファーマシーとは多剤併用のうち害のある状態を指します。)薬物有害作用による身体的な負担のみならず、医療経済的にも問題となっているため、服薬数の減量や服薬回数の整理が勧められています。入院期間中に服薬数増加を避けられない場合もあるため、入棟早期の積極的な服薬数減量の取り組みが重要とされています。

退院に向けて看護師から医師へ服薬調整の相談をすることはありますが、意識的な服薬数減量への取り組みができておらず、入院期間中に服薬数増加をしている場合が多いと感じています。多職種の一員として日常的に患者さんへ関わる看護師も服薬数減量に介入することで、ポリファーマシー対策につながると考えています。

この研究では回復期リハビリテーション病棟の入院患者さんの服薬内容の変化とそれに関連する要因を調査したいと考えています。現状の服薬数減量の実態を明らかにし、今後積極的に服薬数減量に取り組むための検討を行いたいと考えています。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2023年4月1日～2024年3月31日の間に川崎医科大学総合医療センター回復期リハビリテーション病棟において治療を受けられた方を研究対象とします。

2) 研究期間

倫理委員会承認日～2026年3月31日

3) 研究方法

研究者が診療情報をもとに服薬内容の変化および関連要因を調査して、現状の服薬数減量の実態を分析します。

4) 使用する情報の種類

情報：入棟時、入棟後1か月、退院時の服薬内容
年齢、性別、主病名、服薬管理方法、転帰先
服薬内容の変化に関連した基礎疾患、症状、バイタルサイン、検査データ

5) 情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または論文等の発表から5年間、川崎医科大学総合医療センター内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存します。

6) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2025年7月15日までの間に、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

<お問い合わせ・連絡先>

川崎医科大学総合医療センター 8階東病棟
氏名：山崎 麻由
電話：086-225-2111 内線 88010

3. 資金と利益相反

この研究の資金は研究者負担で行われます。本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。